



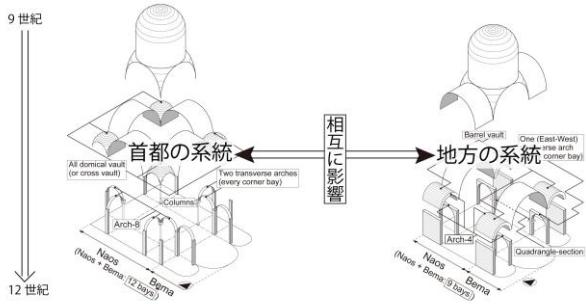
西洋を中心とした海外の建築を対象に、実際の建物を見て考えることに重点を置きながら、建築の時代性・地域性とは何か考えます。また、三次元計測した3Dの教育・研究利用方法についても模索しています。

略歴

東京工業大学総合理工学研究科博士課程修了、博士（工学）。日本学術振興会特別研究員、名古屋大学特任助教を経て現職。慶應義塾大学非常勤講師。
主な受賞に日本建築学会奨励賞、名古屋大学石田賞、ISAIA Academic Oral Session Awards (ISAIA 2024 KYOTO) など。

研究紹介

ビザンティン建築に関する研究



ビザンティンの地域性と時代性の分析

現地調査を行い、海外の建築の地域性や時代性とはどのようなものか分析を行っています。例えばビザンティン帝国の建築は首都から地方へと絶えず建築が伝播していくと従来考えられてきました。しかし調査結果に基づいて教会堂の内部構成を分析すると、地方と首都の様式で並立して存在し、両者が互いに影響を与えるながら発展してきたことがわかりました。

共同研究の事例

- トルコ・リキア地方における城壁調査に関する国際研究（科研費19H01333/20K20721; PI 浦野聰/立教大学）
- ギリシャ・ラコニア地方における教会堂のアーカイブズプロジェクト（鹿島学術振興財団・大幸財団など）
- ブルガリアの教会堂のアーカイブズ化と修復履歴の解明プロジェクト
- エチオピア・アディスアベバにおける歴史的建造物の記録・アーカイブズ化プロジェクト（PI: 岡崎瑠美/芝浦工業大学）

海外組積造建築のドキュメンテーション手法の開拓

前近代に作られた建築は我々が考えるよりも歪な形状をしています。特に伝統的な組積造建築は、石やレンガが手で積まれていました。そのため壁や床面に水平や垂直はほぼ存在しません。本研究室では、そうした海外の建築を写真測量法によって効率的に三次元計測する手法、および得られた三次元データを様々な人々に使ってもらえるような方法論を探求しています。

主な論文発表

'A Typological and Morphological Analysis of the Architecture of the Church of the East in Central Asia' *Proceedings of the 14th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia*, B-11-4, pp. 1-6, 2024年9月.

'3D Scholarly Editions for Byzantine Studies: Multimedia Visual Representation for History, Art History and Architectural History' *ISPRS Annals of Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences*, X-M-1-2023, pp. 125-131, 2023年6月.

「内接十字型教会堂における内部建築構成の展開：中期ビザンティン文化圏における内接十字型の系譜 その1」『日本建築学会計画系論文集』 83(752), pp. 2025-2034, 2018年10月